

中学校

平成 15 年 度

教育研究員研究報告書

社	会
---	---

東京都教職員研修センター

平成15年度

教育研究員名簿（社会）

【地理的分野】

区市町村名	学校名	氏名
新宿	牛込第三中学校	長崎 秀一
墨田	鐘淵中学校	中島 康一
品川	戸越台中学校	加藤 ムカ
大田	出雲中学校	皆川 康子
練馬	上石神井中学校	木原 賢三
日野	大坂上中学校	小室 稔幸

【歴史的分野】

区市町村名	学校名	氏名
板橋	志村第三中学校	佐藤 隆久
葛飾	青葉中学校	井上 奈津子
調布	第六中学校	横溝 照夫
国立	国立第三中学校	藤塚 康子
西東京	田無第二中学校	矢野 研一郎

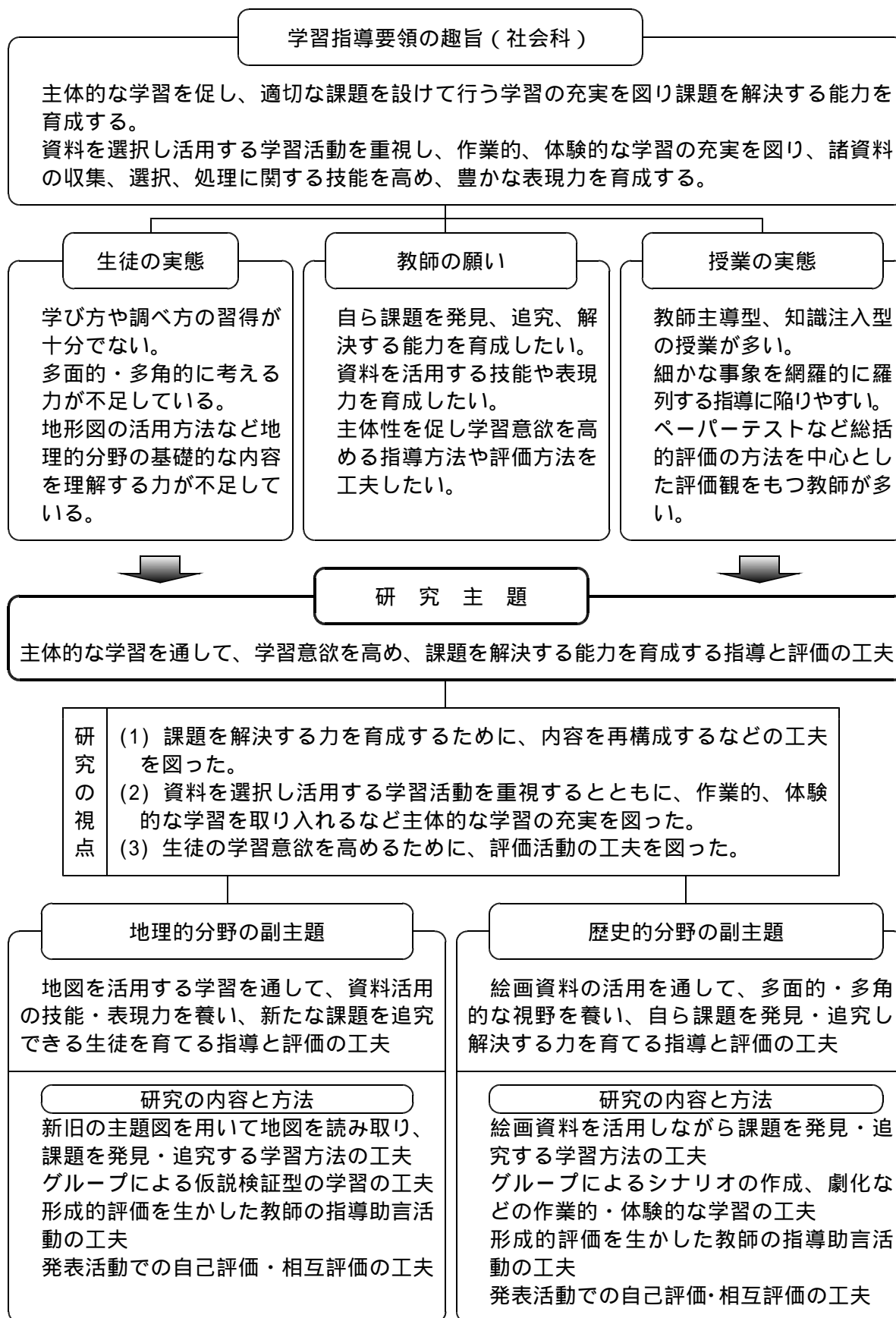
世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター 統括指導主事 細谷 美明

目 次

全体の研究構想図	2
研究主題及び主題設定の理由	3
地理的分野の研究内容	4
1 地理的分野研究副主題及び副主題設定の理由	4
2 検証授業	5
(1) 単元名「地域の規模に応じた調査」	5
(2) 単元設定の理由	5
(3) 「身近な地域」と関連付けて「都道府県」をどう取り扱うか	5
(4) 事例とする都道府県の選択理由	6
(5) 事例とする都道府県を扱う学習の視点と方法	6
(6) 単元の目標	7
(7) 学習指導計画	7
(8) 本時の目標	10
(9) 本時の展開	10
(10) 授業の考察	11
3 地理的分野の研究のまとめと今後の課題	13
(1) 研究のまとめ	13
(2) 今後の課題	14
歴史的分野の研究内容	15
1 歴史的分野研究副主題及び副主題設定の理由	15
2 アンケート集計結果	16
3 検証授業	17
(1) 単元名「戦乱から天下統一へ」	17
(2) 単元設定の理由	17
(3) 単元の目標	17
(4) 学習指導計画	18
(5) 本時の目標	19
(6) 本時の展開	19
(7) 授業の考察	23
4 歴史的分野の研究のまとめと今後の課題	24
(1) 研究のまとめ	24
(2) 今後の課題	24

全体の研究構想図



研究主題及び主題設定の理由

研究主題

主体的な学習を通して、学習意欲を高め、課題を解決する能力を育成する指導と評価の工夫

学習指導要領では、社会の変化に自ら対応する能力や態度の育成を図るために、学び方・調べ方の学習や問題解決的な学習など生徒の主体的な学習を重視している。また、教育課程審議会の提言を踏まえ、事例を通して課題を追究、考察する学習などを展開し、その過程において見方や考え方を身に付けることができるように工夫改善することが求められている。一方、評価については、教育課程審議会や文部科学省から評価の在り方に関する方向性が、あるいは国立教育政策研究所や東京都教育委員会等から評価規準や評価方法の例示など方法論が示された。これらは、生徒の可能性を伸ばすために評価を重視し指導の改善へつなげていく重要性を指摘している。

しかし、これまで社会科の授業においては、社会認識にかかわる細かな事象を網羅的に羅列する指導を行う傾向がみられた。また、教師主導型の一斉指導による説明的・知識注入の授業に陥り易く、生徒が主体性を発揮する場面が少なかった。評価についても、ペーパーテストなどの総括的評価が中心であり、学習過程における生徒への指導・助言が乏しい面も見られた。

その結果、自ら考え表現する能力が十分でない生徒や、教材や資料の基本的な内容を理解し活用する能力が十分でない生徒が多くなっている。また、国立教育政策研究所が行った平成13年度教育課程状況調査結果においても、学び方・調べ方や多面的・多角的な見方などが不足していることが報告されている。これらのことから、学習内容の精選や指導方法、評価方法の工夫が一層求められている。

以上のことを踏まえ、生徒が学習意欲を高め課題を解決する能力を育成するために、学習方法を検討し、学習計画の構成・展開を工夫した。特に今年度は、昨年度の教育研究員の研究を参考にしつつ、資料を活用する学習活動を中心とした作業的、体験的な学習の充実を図り、各分野においてグループ単位での仮説検証型の学習や課題解決学習を行うなどの工夫をして、適切な課題を設ける学習の充実を図った。

評価については、学習指導の展開に伴う生徒の学習状況について、教師が生徒へフィードバックするために、ポートフォリオを活用した形成的評価を取り入れたり、生徒の発表活動の際に自己評価や相互評価を取り入れたりした。これにより、教師は指導の方向や改善点を見出し、生徒は自己の学習活動を評価・調整していくことができると考えた。そして、そのために最適な学習内容、指導方法、評価場面及び評価方法についての検討をそれぞれの分科会において行うこととした。

なお、今年度の研究は、教育研究員の所属学年を考慮し、地理的分野と歴史的分野の2分野で構成し授業研究を中心に行った。

地理的分野の研究内容

1 地理的分野研究副主題及び副主題設定の理由

地理的分野研究副主題

地図を活用する学習を通して、資料活用の技能・表現力を養い、新たな課題を追究できる生徒を育てる指導と評価の工夫

21世紀になり、高齢化・国際化などますます社会が大きく変動していく状況の中、社会の変化に対応する力、社会が変化してもその社会でよりよく生きていこうとする力、よりよい社会を築いていこうとする力が求められている。言い換えれば、これらの力は、学習指導要領でいうところの「生きる力」であり、その基盤となる自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力、知識・技能などの諸能力である。それらを育てていくことがこれからの学校教育の課題である。

現在、地理的分野においては、国立教育政策研究所が平成13年度に実施した教育課程実施状況調査でも明らかなように、基礎・基本の一つである地図の活用能力の定着が十分でないことが課題となっている。そこで、地図の活用能力を、地図を頼りに歩く技能、地形図の読図能力、地図帳の活用技能の3つに焦点化し、生徒の実態を調べるためにアンケート調査を行った。その結果、地図記号など、読図における基本的な知識・技能は身に付いているものの、方角・距離感など生活と結び付いた知識・技能が不足しているということが分かった。また、地図の中に情報が多ければ多いほど読み取りができなくなるなど、自分にとって必要な情報を読み取っていく能力が十分に育っていないことが明らかになった。

地理的分野分科会では、現在、地理的分野がもつ課題や生徒の実態を踏まえて、大単元「地域の規模に応じた調査」の中単元「身近な地域」「都道府県」「世界の国々」のすべての単元において、系統的に様々な地図を活用する学習を行うことにより、地図における資料活用の技能・表現力が養われると考えた。また、地図を活用する能力が身に付くことで、様々な地域や社会への興味・関心がより深まり、新たな課題を発見し、それを主体的に解決していこうとする力が養われると考えた。以上の理由によりこの副主題を設定した。

具体的な研究の方法及び内容として、「身近な地域」では、2千5百分の1のような縮尺の大きい地図（主に地形図）を使い、読図に関する基礎・基本の理解を図りながら新旧の地形図を比較して共通点や相違点を考察させたのち、フィールドワークを行いその検証を行う学習の展開を図った。その後、「都道府県」の学習では、様々な主題図を読み取り、そこから課題を見つけ、仮説を立て検証していくという仮説検証型の学習を行った。新旧の主題図を比較しながら読み取り、地域的特色を時間軸から考察することにより、その地域的特色の変化を理解しやすくなり、生徒の関心を引き出し学習意欲を高めると考えたからである。

以上のように、本研究では、地域的特色を的確にとらえる視点や方法を地図から学ぶことを重視した。また、評価については、昨年度の教育研究員の成果を参考にしながら、授業ごとに評価規準を定め、教師が形成的評価による適切な指導・助言を行うことで、生徒の学習意欲を喚起し課題設定や追究においてより効果を上げていくと考えた。

2 検証授業

(1) 単元名「地域の規模に応じた調査」《学習指導要領 内容 (2)地域の規模に応じた調査》

(2) 単元設定の理由

本分科会においては、今年度の研究単元として、大項目「地域の規模に応じた調査」を取り上げることにした。

平成14年度から本格実施となった学習指導要領で、地理的分野の学習は、「学び方を学ぶ」学習をより一層重視することとなった。さらに、前述の教育課程実施状況調査では、地図の活用に関する技能が小学校段階から十分に身に付かないまま中学校に入学し、効果的な指導もなく中学校課程を終えている姿も浮き彫りにされた。教師は、地理の授業で様々な地図を扱っているが、教師主導となり、生徒にとっては地図の内容理解にとどまっているのが現状といえる。

学習指導要領では、大項目「世界と日本の地域構成」の目標を「世界と日本の基礎的な枠組みを地球儀や地図帳を活用してとらえさせ」、「地域の規模に応じた調査」の目標を「三つの規模の地域を取り上げて実際に地域的特色を追究する調査活動を通して、自らの力でその特色をとらえる調べ方、学び方を身に付け」、「世界と比べてみた日本」の目標を「世界的視野から日本国土の地理的認識を深めるとともに地域間を関連付けて地域的特色を追究する調べ方や学び方を身に付ける」としている。各項目で地図を使用しながら有効な調べ方、学び方を身に付けるにはどの単元が最も適しているか様々な角度から試行を重ねた。今回の研究単元を「地域の規模に応じた調査」に決定したのは以下の理由による。第1に、中項目「身近な地域」では地図を使ったフィールドワークにより新たに発見する喜びを探り、第2に、「都道府県」では主題図を使った新旧比較による相違点・共通点を読み取ることにより課題追究への解決法を探り、第3に、「世界の国々」では縮尺の小さい様々な地図を読み取ることにより地域性を理解しその内容を新たな地図にまとめ表現力を身に付けるという、単元全体を通してそれぞれ違った地図の使い方が学習でき、最も地図を必要とする単元であると考えたからである。

「地域の規模に応じた調査」の学習では、地域的特色を捉える視点や方法が地域の規模に応じて異なっていることに着目し、三つの規模の地域を取り上げて実際に地域的特色を追究する調査活動を通して、自らの力で地域的特色をとらえる調べ方、学び方を身に付けさせることを目的としている。特に今回は、「地域の規模に応じた調査」の中の中項目から「都道府県」を検証授業として選び、主題図を使った新旧比較による地図を読み取ることにより地域的特色をとらえる学習を計画した。さらに、生徒の学習意欲を喚起、持続し内容の理解をより効果的にするため、形成的評価を行いながら生徒の変容を観察し教師の適切な指導・助言を行った。

(3) 「身近な地域」と関連付けて「都道府県」をどう取り扱うか

学習指導要領では、「身近な地域」について、「身近な地域における諸事象を取り上げ観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。」とあり、さらに、「内容の取扱い」で「学校所在地の事情を踏まえて観察や調査を指導計画に位置付け実施すること。その際、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めるようにすること。」とある。つまり、「身近な地域」の学習は、直接経験ができるといった特質をもっているので、体験的、作業的な学習を通して、生

活している地域に対する理解と関心を深めさせていくことができると考えられる。そこで、フィールドワークを行い、身近な地域の再発見をし、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法の基礎を身に付け、地域の課題を考えられるよう学習の展開を図った。その際、縮尺の大きな地図（地形図）を利用して、読図に関する基礎・基本（方角、地図記号、縮尺、実際の距離等）の理解を図った。

「都道府県」の学習について、学習指導要領では、「47都道府県の中から幾つかの都道府県を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。」とあり、さらに「内容の取扱い」では、「二つ又は三つの都道府県を事例として選び、具体的に取り扱うようにすること。なお、事例として取り上げる都道府県については、学校所在地の都道府県を含めて選び、それぞれ特色ある視点や方法で追究するようにすること。」とある。ここでは、取り上げる都道府県は二つ又は三つであるが、今回は、多面的・多角的な視点や方法で考察させる時間を十分確保するために、学校所在地の「東京都」を含め、二つの都道府県の学習を設定した。そして、この「都道府県」の学習では、主題図を用いて、地域的特色を読み取らせ、その中から、課題を追究させるように学習を進めていくことにした。

さて、二つの都道府県をどのように選択するかであるが、その選択する視点については、昨年度の教育研究員の成果を参考にした。簡単にその視点を挙げると、

自然環境、人口、産業、地域間の結び付き、生活・文化などの視点から見て、わかりやすい明確な特色があり、二つの事例を通して、最終的にこれらの視点をほぼすべてカバーできる都道府県であること。

二つの事例を通して、異なる視点や追究の学習を体験できること。

「都道府県」の学習の相互比較により、特色をより鮮明にとらえることができる都道府県であること。

そのうえで、学校所在地の「東京都」にはない特色を多くもっていること、また、「東京都」とは対照的な特色をもっていることなども加味して選択していくとなっている。

(4) 事例とする都道府県の選択理由

〔東京都〕 学校所在地であり、さらに人口分布について市街地の拡大とドーナツ化、交通網の集中、企業の集中など他の道府県にはあまり見られない地域的特色をもっていると考えられるから。

〔沖縄県〕 位置や気候などの自然環境、生活・文化や歴史に関して、東京都にはない特色を多くもっていると考えられるから。

(5) 事例とする都道府県を扱う学習の視点と方法

内容構成及び教材の工夫

二つの事例を学習することで、自然、人口、産業、地域間の結び付き、生活・文化に関することなどの地域的特色をみていく時の大まかな視点はずさないように構成した。また、課題を発見し追究しやすいように、二つの事例を通して主題図を比較することで地域的特色を明らかにした。

学習形態及び学習方法の工夫

二つの事例を通して主体的に学習に取り組ませるために、昨年度の研究成果を参考にし、グループによる仮説検証型の学習を取り入れた。また、課題に適した仮説を立てられるよう授業ごとに発表活動を取り入れた。

評価の工夫

二つの事例それぞれについて、評価規準を作成しそれに照らし合わせながら形成的評価を随時行うことで、生徒一人一人に応じた適切な指導・助言を行い、学習内容をより理解し学習意欲を高める工夫を図った。

(6) 単元の目標

地理的な事象から課題を設定し追究する過程を通して、主体的に学習に取り組んでいく態度を育てる。

様々な主題図を比較・検証する学習を通して、地域の一般的共通性や地域的特殊性を見だし、地域の規模に応じた地域的特色をとらえる視点や方法の基礎を身に付ける。

追究した結果を地図を活用してまとめる学習を通して、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付ける。

(7) 学習指導計画

身近な地域

身近な地域の地理的事象を、新旧の地図を比較する学習と観察やフィールドワークなどの活動を通して、地域的特色を明らかにする視点や方法を学ぶ。

都道府県

様々な地図の読み取りを通して、都道府県の地域的特色を明らかにする方法を学ぶ。

ア 「東京都」：地図の読み取りを通して、地域的特色を明らかにする方法を学ぶ。

：6時間

第1段階：主題図から東京都の地域的特色を考えよう。 (第1・2時)

第2段階：課題を設定し、仮説を立てよう。(本時) (第3・4時)

第3段階：仮説を検証し、発表しよう。 (第5・6時)

イ 「沖縄県」：地域的特色をさらに追究し明らかにする方法を学ぶ。 : 6時間

世界の国々

様々な地図を比較・関連させることにより、国家規模の地域的特色を明らかにする方法を学ぶ。

ア 「中国」：地図の読み取りを通して、地域的特色を明らかにする方法を学ぶ。

イ 「アメリカ合衆国」：地図を比較・関連させることを通して、地域的特色を明らかにする方法を学ぶ。

ウ 「オランダ」：国家規模の地域的特色をさらに追究し、明らかにする方法を学ぶ。

学習指導計画

	学習の目標・内容	使用地図	評価規準(形成的評価)	教師の支援
	新旧の地図の比較を通して	大縮尺地形図	(資)縮尺の大きい地	・地形、土地利用、

身近な地域	<p>地域の特色を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧の地形図を比較し考察させることにより、地域の特色をとらえる視点や方法の基礎・基本を身に付ける。 ・フィールドワークにより、地域の特色を検証しよう。 ・観察場所を決め、考察した内容について現地調査を行う。 	<p>(1 / 2,500) (1 / 10,000) (1 / 25,000) 新旧の地形図</p>	<p>形図の読図に関する基礎的な技能を身に付けることができたか。</p> <p>(知)縮尺の大きい地形図を使って地域の様子が理解できたか。</p>	<p>交通網など地理的事象に着目させながら比較させる。その際、共通点と相違点を考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークは、地図の比較をした箇所を中心に行う。
都道府県	【第1段階】主題図から東京都の地域的特色を考えよう。			
	<p>一般図を見ながら東京都の特色を考える。</p> <p>様々な主題図を見ながら東京都の特色を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用 ・人口分布 ・各工業の分布 ・交通網 	<p>一般図</p> <p>土地利用図</p> <p>区市町村別人口図</p> <p>工業分布図</p> <p>交通網図</p>	<p>(資)様々な主題図から、情報を引き出す技能を身に付けることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般図では自由に意見を述べさせる。 ・都心部では市街地が、周辺部では田畑が広がっていることに気付かせる。 ・都心部の人口より、周辺部の人口が多いことに気付かせる。 ・都心部に鉄道網が集中していることに気付かせる。
	【第2段階】課題を設定し、仮説を立てよう。(本時)			
<p>新旧の主題図を比較し、気付いた点を疑問文にし仮説を立てる。</p> <p>(例)なぜ、都心部の人口が減り周辺部が増えているのか? 家賃が高くなり、ビ</p>	<p>新旧土地利用図</p> <p>新旧市区町村別人口分布図</p> <p>新旧工業分布図</p>	<p>(資)東京都の特色について、課題(疑問)を考え、それを仮説(予想)として設定することができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比較する際、共通点と相違点をさせせる。 ・疑問文を作る際、地域差に着目させる。 	

都 道 府 県	東京都	ルが増え住宅地が減少したためである	新旧交通網	(思)地域的特色を明らかにするような仮説(予想)を検討し、考察することができたか。	・仮説を設定する際、見直しをもった内容になるよう配慮する。
	東京都	【第3段階】仮説を検証し、発表しよう。			
	東京都	検討した仮説について、検証するための統計や地図、文献等を収集する。 東京都の特色をまとめ、グループごとに発表し、新たな課題を考察する。	(例) 東京都の地価 変遷表 都道府県別人口 変遷表 東京都の昼夜 間人口分布など	(思)様々な資料を比較・関連させ、学習を進めることができたか。 (資)東京都の地域的特色を明らかにすることができたか。	・検証結果の発表を分かりやすくするために数値化やグラフ化させる。 ・仮説が違った場合もその理由を発表させる。
沖縄県	沖縄県の地理的事象の中から、地図を通していくつかの事象を発見しよう。	一般図 地形図 気候区分図 土地利用図 工業分布図 農業分布図	(資)都道府県規模の地理的事象を比較・関連の視点から追究する方法を理解できたか。	・地形、気候、土地利用など視点を定め、東京都との比較・関連を通して、地域的特色に気付かせる。	
「世界の国々」は省略					

(関)関心・意欲・態度 (思)思考・判断 (資)資料活用の技能・表現 (知)知識・理解

【単元の評価(総括的評価)】(注) は評価の観点を示す

様々な地理的事象の広がりから、地域的特色を見いだし主体的に学習に取り組むことができたか。 関心・意欲・態度

地図を比較・関連させる学習を通して、地域の一般的共通性と地域的特殊性を見いだすことができたか。また、追究した結果を地図を活用して地理的なまとめ方や発表の方法を身に付けることができたか。 資料活用

地域的特色を見いだすような適切な仮説を設定し、追究することができたか。

思考・判断

地域の規模に応じて地域的特色をとらえる視点や方法を学ぶことができたか。

知識・理解

(8) 本時の目標

年代別の主題図の比較からその変化を見だし、東京都の特色をとらえるなどの資料収集・整理の視点や方法を身に付ける。

発見した特色について、その原因を考え、それを仮説として設定するなど学び方を身に付ける。

市街地の拡大とドーナツ化、交通網の都心部への集中、都心部の企業集中など、東京都の特色を理解する。

(9) 本時の展開

	学習内容・活動	使用地図	評価規準（形成的評価） （評価の観点／評価方法）	教師の支援
導 入	<p>本時の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回との関連や、今日のポイントは新旧の主題図を比較することを 			
展 開	<p>新旧の主題図の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題図別のグループで新旧の主題図の変わった点と変わらない点を見つける。 仮説を立てる ・新旧主題図の比較から見つけた点を疑問文に書き換える。 ・いくつか出てきた疑問点から、自分の班で追究するものを選ぶ。 <p>・その疑問の答えを予想する（仮説を立てる）。 「都心部の人口が減少したのは、</p>	<p>（1960年頃と1990年頃の新旧主題図）</p> <p>交通網 土地利用図 人口分布図 各工業の分布図 など</p> <p>地図帳 関東地方・東京都に関する地図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧の主題図の変わった点と変わらない点を見つけることができたか（資料活用／ワークシート） ・東京都の特色をとらえるための地理的な疑問を選ぶことができたか（思考／ワークシート） <p><u>適切でない例</u> 「なぜ東京都全域で工場が増えたのか」 <u>適切な例</u> 「なぜ都心部に出版・印刷工場が増えたのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都の特色を踏まえて、仮説を考えることができたか。（思考・資料活用／ワー 	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部、区部と市部、西部と東部など、部分的に見て探した方がよいことを助言する。 ・疑問文を作る際の視点として「どこで」「何が」「どうなった」といった5W1Hが抜けしていないか机間指導しながら留意する。 ・それぞれの主題図の関連を助言する。 ・予想した答えに「それはなぜか？」と深く考えさせたり、「その他に原

	<p>適切な仮説...市部に人口が移動したためである」</p> <p>適切な仮説...家賃が高くなり、ビルが増え住宅地が減少したためである」</p>		クシート)	因は？」と視点を変えさせたりして多面的に考えられるようにする。
まとめ	<p>仮説を発表する</p> <p>・各班ごとに課題と仮説を発表する</p>		<p>・自分の班の仮説を正確に説明する事ができたか。(資料活用/ワークシート)</p>	<p>・発表することによって、各班の仮説を確認、修正するように方向付ける。</p>

(10) 授業の考察

本單元では、新旧の地図を比較することによって東京都の地域的特色を発見することが課題であり、課題追究の方法として仮説を設定しそれを検証する学習活動を取り入れてみた。そのことによって、生徒が主体的に課題を考え、意欲的に地図を活用して課題を解決しようと検証活動を展開するであろうと考えた。本時以降の授業に関する考察は以下の通りである。

地図を活用することができたか

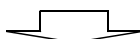
東京都に関する4種類の主題図をそれぞれについて1960年前後のものと1990年前後のものを比較させることによって、生徒は地図から多くの特色を発見することができた。一般図ではなく主題図を扱ったのは、事前に行ったアンケートで、一般図は情報が多すぎて読み切れない生徒が多いことが確認され、主題図を比較した方が特色を発見しやすいと判断したためである。また、特色を発見するときの視点が定まらなると予想したため、本時の前に、東京都を都心部、区部、市部などに分けたことにより、生徒は細かい視点で特色を見出すことができた。ただ「交通網」「工業」の主題図については、表記の仕方に若干の違いがあったり凡例の表示に違いがあったりしたため、その主題図を使った班は戸惑っていた。そのため、これらの主題図については、教師が事前に地図を修正するまたは地図を作り直すことが時には必要である。

適切な仮説を設定することができたか

生徒にとって仮説を設定するという学習活動は初めてであるため、段階的に学習を進める工夫を行った。

第1段階として、主題図の比較から発見した特色を、「なぜ」で始まる疑問の形に変えた(次ページの資料を参照)。

特色 都心部に出版・印刷工業が増加した。



なぜ、都心部に出版・印刷工業が増加したのか。

第2段階として、その疑問に対する「答え」を「仮説」とした（下の資料を参照）。

仮説 都心部に出版・印刷工業が増加したのは、
都心部にはビルが多く重要な機関が集まっているためである


このように段階的に学習を進めることにより、生徒はスムーズに仮説を立てることができた。

また、生徒が設定した仮説が、東京都の特色をとらえるという課題を考えるのに適切な内容であるか、次時で検討する機会を設けた。具体的には、疑問と答え（仮説）を黒板に貼り付け、他のグループからアドバイスをもらい修正する方法で行った（下の資料を参照）。その結果、「都心部の人口が減少したのは、市部に人口が移動したためである」という一面的な仮説が、他のグループの「仮説を含めて疑問として、考え直した方がよい」というアドバイスによって、「都心部の人口が減少し市部の人口が増加したのは、都心部で地価が高くなり住みにくくなり、市部では住宅地が増加したためである」と変化した。以上のことから仮説を発表し、検討するという方法は、課題に適した仮説を立てるためには有効であるといえる。

<生徒のワークシートより>

前回の仮説

市部で森林や田畑が、市街地になったのは、
山地を開拓する技術が発達したためである。

 <他の班のアドバイス> ・人口の主題図の特色と関連している

仮説（決定版）

市部で森林や田畑が、市街地になったのは、
区部の人口が市部に移動して、市部に住宅地が増加したためである。

形成的評価は生徒が仮説を設定するために有効な評価方法であったか

仮説を設定する学習活動はそのつど修正する必要があると予想したため、あらかじめ評価規準を設け、それに到達できない場合にどのような支援を行うかを推測しておくという評価方法（形成的評価）をとった。そのため本時の指導案では、「評価規準」のあとに「教師の支援」を設定している。本時でも、「新旧の主題図の変わった点と変わらない点を見つけることができたか」という評価規準に対して、多くの班で到達度が低いため、表現方法について「どこで」「何が」「どうなった」という書き方を助言した。その結果、前述の規準についてほとんどの班が達成することができた。以上のことから、評価規準に到達するための教師の支援を前提とした形成的評価は、仮説を設定する学習活動では有効であるといえる。

3 地理的分野の研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

新旧の主題図の活用は、地域の変化への興味・関心や学習意欲を高める

本分科会では、地図を活用する学習を通して資料活用の技能を養うことを研究主題の一つにかかげた。この主題に迫るため、東京都の新旧の主題図を比較しながら様々な地理的事象を読み取る学習を検証授業で実施した。地域的特色を時間軸の視点から考察することにより、その地域的特色の変化が分かりやすくなり、生徒の興味・関心を引き出した。その結果、人口や産業などの分布を意欲的に学ぶ姿が見られた。生徒の授業の振り返りでも、意欲的に取り組むことができた、と答えた生徒が多かった。

また、比較させる着眼点として、「5W1H」を意識させることで、地理的な見方や考え方ができるようになった。たとえば、その変化がなぜ起こったのだろうか、という疑問に結び付けやすくなった。その疑問が次の学習への動機付けとなり、より深みのある学習へつながるようになった。

仮説検証型の学習は生徒の主体的な活動を促し、学習活動の発表は課題の見方を深める

仮説検証型の学習では、仮説を設定する過程の学習が重要である。しかし、生徒にとって仮説を設定する学習は、これまでに経験することが少なかった学習形態であるため、戸惑いもみられた。そこで、はじめに主題図から読み取った特色を疑問の形にし、その答えを仮説の形とする方法をとった。このように、段階的な学習の工夫を行うことで、生徒は仮説を適切に設定できた。そして、このような工夫が課題設定時における学習意欲を喚起するだけでなく、学習意欲を持続するにも効果的であることがわかった。

また、課題（仮説）を一面的なとらえ方で簡単に設定させることなく、適切で発展性の高い課題として設定することが重要と考え、その方法として、グループでの活動を他のグループの前で発表する活動場面を設定した。グループで話し合う中で、多様な見方・考え方が接触し新たな学習課題の発見を生んだ。そして、その活動を他のグループに発表、他のグループからのアドバイスをもらい検討することで、より適切な課題に修正することができた。

形成的評価は仮説検証型の学習における、有効な評価方法である

仮説検証型の学習で適切な課題を設定する学習活動がこの学習の重要な要素となることや、仮説を設定するにあたっての発表活動の有効性は前述した。しかし、このような手立てを用いても、適切な仮説を設定することが困難な場合もある。本分科会では、評価方法の工夫を通して、生徒を支援し、適切な仮説が設定できるよう試みた。

仮説を設定する学習活動で「おおむね満足できる」状況に到達していない生徒に対しては、形成的評価を通しての教師の支援が有効であった。検証授業では、新旧の主題図の変化の読み取りを表現する際に、その表現方法が困難な生徒が少なからず存在していた。そのような生徒に対して、教師が形成的評価を行うことで、「おおむね満足できる」状況に変容する生徒が多く見られた。

以上のように、本単元のような生徒自らが主体的に活動する仮説検証型の学習において形成的評価を活用することは、知識・技能の習得や思考・判断力の育成、さらに学習意欲

の喚起や持続にも有効であることがわかった。

(2) 今後の課題

地図を活用し、資料活用の技能・表現力を養う学習において、新旧の主題図を活用するのが有効であることは前述した。しかし、課題として、新旧の主題図を準備する際の適切な教材化の問題があげられる。主題図のテーマが同じであっても、主題図の作製年代の違いから、色使いや表記の違いなどがあり、生徒にとっては読み取りの際の戸惑う原因となっていた。今後は年代が異なっても同様の形式の主題図を整備する必要がある。その際、教科書・地図帳などに適切な主題図がない場合は、教師による作製も必要になると考える。

また、評価の在り方については、多くの改善が今日必要とされているが、本研究においても、評価規準の明確化がさらに必要と考える。特に仮説検証型の学習においては、課題（仮説）の設定が重要な柱となるため、その学習活動に対して適切な評価規準を設定しなければ、適切な評価も適切な指導も行えない。生徒の設定した仮説が、地理的な見方・考え方をもった疑問となっているか、それが発展的な内容をもっているかが評価規準作成の視点となると考える。

最後に、生徒の地図の活用能力の育成は、「都道府県」の単元だけでなく、小学校の学習から計画的に培う必要性を感じた。これは、小・中学校教育課程実施状況調査や本分科会の調査でも明らかである。本研究ではこの点を配慮し、主題図を教材としたが、今後は情報量の多い一般図でも、十分に活用できる地図の活用能力を身に付けるための学習方法のさらなる工夫と開発が不可欠と思われる。

歴史的分野の研究内容

1 歴史的分野研究副主題及び副主題設定の理由

歴史的分野研究副主題

絵画資料の活用を通して、多面的・多角的な視野を養い、自ら課題を発見・追究し解決する力を育てる指導と評価の工夫

中学校学習指導要領の社会科歴史的分野は、「改訂の趣旨」の中で「我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に理解するようにするとともに、歴史についての学び方や調べ方を身に付け、多面的な見方ができるようにする」としている。

しかし、従来の歴史学習は、細かな事象を網羅的に羅列する学習や教師主導型の一斉学習による知識注入の授業に陥りやすい傾向にあったため、生徒に多面的・多角的な視野や、自ら課題を発見し解決する力を育成することの難しさを指摘されてきた。このことは、平成13年度の国立教育政策研究所の教育課程状況調査報告書にも示されている。

歴史的分野分科会では、上記調査報告書の中の歴史的分野における「指導上の改善点」や生徒アンケート等で、生徒の歴史学習において必要な能力等について把握しようとした。

そこで、歴史的分野の学習で活用する資料に関し、その使い易さなどについて生徒対象のアンケートにより探った（次ページ「2 アンケート集計結果」参照）。その結果、絵画資料は、生徒にとって視覚的にとらえられ印象深いにもかかわらず、分かりにくく活用しにくい資料だということが分かった。その理由について、生徒が絵画資料に対する見方・考え方を身に付けていないためではないかと本部会では考えた。

このことから、絵画資料の選定を工夫しながら、資料の読み取りや読み取った結果について表現することを重点化した課題解決型の学習活動の展開を図れば、生徒が学習意欲を高め、時代や社会の特色と地域の関連性について多角的・多面的に考察し、自らの課題を発見・追究しながら解決していく力を育成できると考え、歴史的分野の副主題を設定した。

具体化のために、グループ学習の中で世界の歴史との関連をもたせながら考察できる絵画資料として「南蛮屏風」に着目した。そして、絵画に描かれた人物や事物から時代背景や時代の特色を考察し、その結果を劇化する学習を行うこととした。この学習の中で、生徒はテーマや舞台設定を決める過程の中で課題を発見し、シナリオづくりを通じて課題を解決する力を身に付け、劇の発表を通してその時代の理解を深めることになると考えた。

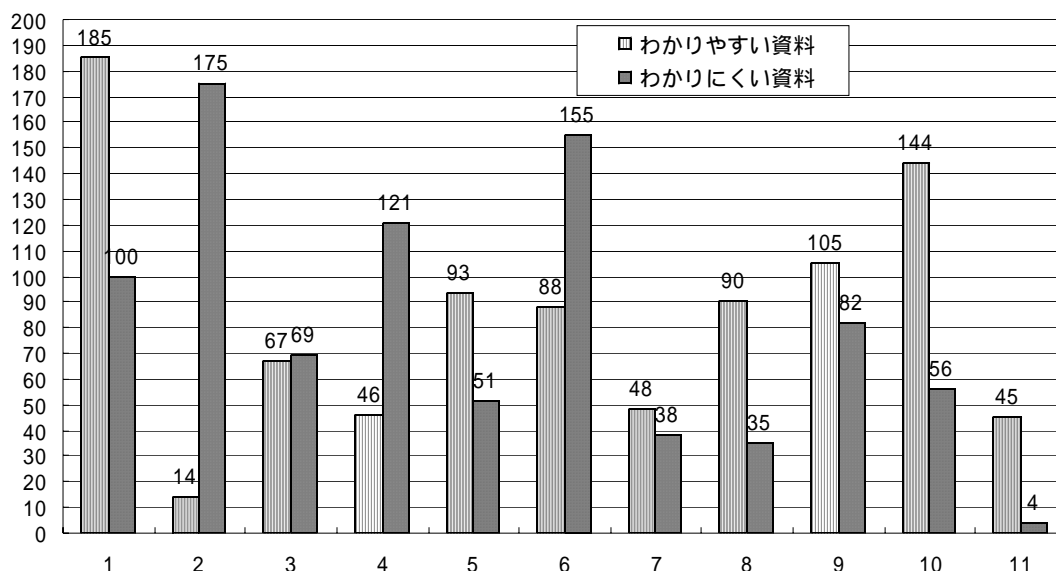
また、昨年度の教育研究員の研究成果を参考にしながら、ポートフォリオを活用しながら形成的評価を学習課題の発見・追究・解決する場面で取り入れる評価方法の工夫を図った。このことにより、教師は適切な場面で評価を行い生徒一人一人へ適切な指導・助言を行うことができ、生徒はその後の学習を意欲的に追究することができると思った。さらに、生徒が発表場面で相互評価を行いまとめの場面で互いのよい点を発表し合うとともに、自己評価活動も加えることで、学習意欲を高め主体的に学習する態度を形成すると考えた。

2 アンケート集計結果

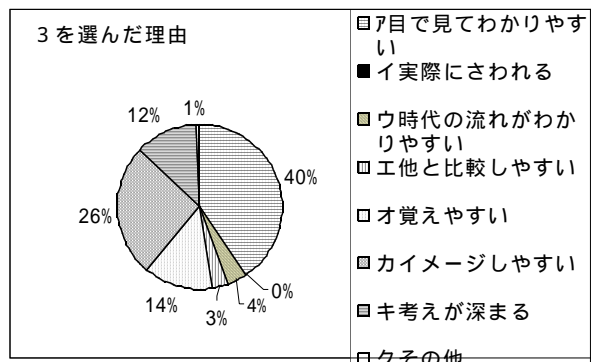
[平成15年7月 都内5校 中2 365人 中3 120人を対象に実施]

(1) 歴史学習で「分かりやすかったり調べやすかったりした資料」及び「分かりにくかったり調べにくかったりした資料」

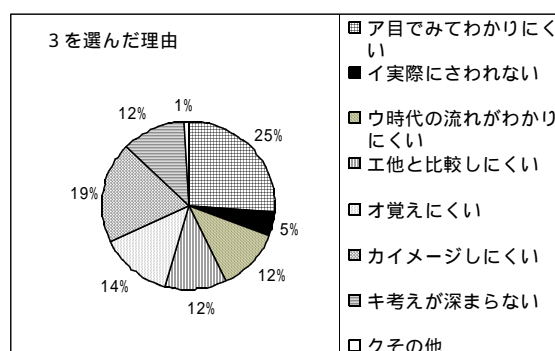
1	年表	2	地図	3	絵画	4	統計・グラフ	5	写真	6	文章資料
7	模型	8	実物資料	9	本	10	ビデオ	11	その他		



(2) わかりやすい資料で3（絵画）を選んだ理由



(3) わかりにくい資料で3（絵画）を選んだ理由



(4) 印象深かった資料 - 3（絵画）について - ()内の数字は人数を示す

浮世絵(12) 「南蛮屏風」(4) 「蒙古襲来絵詞」(3) 「一遍聖絵」(3) 参勤交代の絵(3)
 「風神雷神図」(3) 「長篠合戦図屏風」(2) 「冬景山水図」(2) ふすま絵(2)
 ナポレオンの絵(2) <以下、1名の回答> 日露戦争の風刺画 織田信長の絵
 ノルマントン号事件 ザビエルの絵 関ヶ原の合戦の絵 金鉱を掘るインディオの絵
 「源氏物語絵巻」 モナリザの絵 天明のききんの絵 犬追物の絵 満州事変の風刺画
 「洛中洛外図」 大塩平八郎の乱の絵 家紋 「東海道五十三次」 縄文人と弥生人の絵

3 検証授業

(1) 単元名「戦乱から天下統一へ」《学習指導要領 内容 (4) 近世の日本》

(2) 単元設定の理由

学習指導要領の歴史的分野「2 内容」の「(4)近世の日本」では、「目標(1)」の中の「我が国の歴史の大きな流れ……を理解させ」と「目標(2)」の中の「歴史に見られる国際関係や……精神を養う」が示すように、本単元では、歴史の大きな流れを世界の歴史や国際関係を背景としてとらえた学習展開を図ることができ、生徒が多角的・多面的な視野をもって考察することが期待できる。

そこで、この単元の内容を再構成し、絵画資料を題材とした劇化を取り入れた課題解決型の学習方法を導入することにより、生徒が意欲的に学習に取り組むことができるであろうと考えた。「絵画資料を題材とした劇化」を大きな柱として単元を再構成した場合、「南蛮屏風」は登場する人物や事物が写實的に描かれており、絵図から歴史的・地理的事象を比較的容易に読み取ることができる。したがって、この資料から生徒が興味や関心をもって多面的・多角的な考察を行い問題意識をもつような課題を設定することが期待できる。

以上のような理由を踏まえ、「近世の日本」の中の「戦乱から天下統一へ」を検証授業の単元として設定した。指導の流れとしては、グループ単位で絵画資料から学習課題を設定し解決する学習をきっかけとし、グループでテーマを決め、登場人物の使命・立場を十分に押さえてシナリオを作成していく。その過程で生徒は互いに学び合い高め合いながら課題を解決していく。その後、劇の発表を行い南蛮船が渡来した当時の社会を再現することによりその時代の理解を深め、その場で互いに相互評価や自己評価をすることとした。以上の学習展開を5時間で扱う構成とした。

絵画資料を様々な角度から読み取り課題を発見させるための工夫として、「南蛮屏風」を拡大コピー化し各グループに配布するなど絵図に描かれた人物・事物に関心をもって着目させることと、5W1H(いつ、どこで、誰が、なぜ、何を、どうやって)を考えながら課題の設定を行うよう助言することが挙げられる。

また、ここでは、前年度の研究成果を活用し、ポートフォリオを活用しながら形成的評価を行い、教師の指導助言活動に生かす方法を取り入れた。これは、生徒の学習状況を的確に把握し適切な助言を行うとともに、学習意欲の喚起・継続を図るために有効な方法であると考えたからである。

(3) 単元の目標

絵画資料をもとに生徒が自ら学習課題を設定し、追究した結果をシナリオを作り劇化し発表する学習を通して、16世紀のヨーロッパ人の来航とその背景、ヨーロッパ文化の伝来が我が国に及ぼした影響について理解させるとともに、資料を活用する技能や表現力、思考力、判断力などを育成する。

ポートフォリオを活用しながら教師が形成的評価を行うことにより、生徒の学習意欲を高める。

(4) 学習指導計画 (5 時間扱い)

時	学習内容	学 習 活 動	学習活動の留意点及び 形成的評価のための評 価規準と評価方法	教師の指導・助言活動
1	<p>絵画資料からグループ内で課題を発見・追究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南蛮屏風をじっくり見て、興味、関心をもった人物や事物をさがし、気付いたことを付箋に書きこみ、拡大絵図に貼る。 ・付箋に書かれた気付いたこと、疑問に思ったことをグループの中で話し合う。 ・各グループより話し合った内容を発表する。 ・上記の内容(分かったこと)をプリントにまとめる。 ・シナリオづくりの準備を行う。 劇づくりの手引きを読む 必要な登場人物を決める。 (戦国大名等の武士、南蛮人宣教師、日本人キリシタンや商人、召使、インタビュー) 本日の授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋に何枚書いてもよい。 ・たくさんの付箋が貼られた人物や事物を中心に話し合う。 <p><u>(思) 話し合っ分かったことを多面的・多角的にまとめられたか。(ワークシート)</u></p> <p><u>(関) 意欲的に課題が発見できたか。(自分の付箋の数)</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班員の分だけ色分けした付箋を用意する。 ・絵を見て5W1Hに配慮しながら時代背景を読み取るよう適宜助言する。 いつの時代 どこから来た どういう目的 など ・発表された内容について基本的なことは補足説明し整理する。 ・必要な登場人物が抜けていないか確認する。 ・インタビュー形式のシナリオづくりの手順を説明する。
2・3 (本時)	<p>グループで絵画資料をもとにシナリオを作成する。 (検証授業指導案参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオづくりを行う。 シナリオの舞台設定・時代背景・テーマを決める。(ヨーロッパ人の渡来、この頃の世界の様子、キリスト教、戦国大名と南蛮貿易) ・テーマに沿った主人公を決める。 ・各グループで前時に貼られた付箋をもとに南蛮屏風を見て質問と答えを考える。 ・完成したら、ワークシートの点検・助言を教師から受ける ・本日の授業の感想を書く。 ・キャストイングを行う。 ・自分の台詞を考え、ワークシートに記入する。 ・インタビューは進行計画表を作成する。 ・シナリオの読み合わせを行う。 ・小道具を作成する。 ・本日の授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋を参考に舞台設定やテーマを決める。 <p><u>(思) テーマにヨーロッパ人の渡来、この頃の世界の様子、キリスト教、戦国大名と南蛮貿易が入り、テーマに沿った主人公を決定したか。(ワークシート)</u></p> <p><u>(関) 協力してワークシートが作成できたか。(複数教師の観察・ビデオ)</u></p> <p><u>(知) ヨーロッパ人の渡来、キリスト教、戦国大名についてふれるなど、登場人物の役割が理解できたか。(ワークシート)</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートにコメントを行う。 ・発表時間(3-5分)を指示する。 ・前回決めた登場人物を南蛮屏風から確認させる。 ・5W1Hを踏まえ、インタビュー項目の中に世界と日本のかかわりを示すものを必ず取り入れるよう助言する。 ・ワークシートの点検、助言を行う。 ・次時までには自分の台詞を覚えるよう指示する。 (どうしても覚えられない場合は、シナリオを見なくても台詞を言えるような小道具を作成する)
4	<p>グループで絵画資料をもとに劇化を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとにシナリオの最終確認とリハーサルを行う。 ・班ごとに発表する。 ・他の班は相互評価用紙に伝えようとしたこと、疑問に思ったこと、特に印象に残ったこと等を 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他のグループの発表から学ぶ。 <p><u>(知) 他グループが伝えたことを理解したか。</u></p> <p><u>(思) 他グループの発表から疑問等を考えたか。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表が終わるごとにコメントを行う。 ・教師用の評価表にも記入していく。 ・相互評価用紙は回収し、教師が目を通しておく。

		記入する。	<u>(関) 他グループの発表の印象を表現できたか。</u> (以上、相互評価用紙) <u>(技) 既習事項を生かした発表ができたか。</u>	
5	相互評価の発表と自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回記入した相互評価用紙をもとに、他グループの発表でよかった点や質問したいことを発表する。 ・他グループの発表を受けて、自己評価表を記入する。 (記入上の留意点) <ul style="list-style-type: none"> ・疑問を解決できたか ・南蛮人渡来の背景と影響 ・役に立ったこと ・うまくできなかった理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったことをまとめる。 <u>(思) 疑問を解決できたかについて考えられたか。</u> <u>(知) ヨーロッパ人渡来の背景と影響に関しまとめられたか。</u> <u>(関) 役に立ったこと、うまくできなかった理由を書けたか。</u> (以上、自己評価用紙)	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手がない場合は、よい内容を書いた生徒を指名する。 ・自己評価表の質問項目は、研究主題に沿った内容にする。 自ら課題を発見・追究し、解決する力 多面的・多角的な視点 学習意欲の高まり

(関)・・・関心・意欲・態度 (思)・・・思考・判断 (技)・・・資料活用の技能・表現 (知)・・・知識・理解

【単元の評価規準(総括的評価)】(注) は評価の観点

意欲的に自ら課題を発見し、学習を通して新たな課題を発見できたか。

関心・意欲・態度

学習のはじめにもった疑問がどのように解決できたか考えることができたか。

思考・判断

様々な資料を適切に用いてシナリオをつくり、発表することができたか。

資料活用の技能・表現

ヨーロッパ人来航の背景と影響について理解できたか。

知識・理解

(5) 本時の目標

前時に生徒が書いた付箋の内容に関連させながら、インタビュー形式で行う劇化用のワークシートをグループ活動により作成するを通し、資料活用についての技能や表現力を養う。

ヨーロッパ人の渡来・キリスト教の伝来・南蛮貿易といった出来事を南蛮屏風を通して着目させ、世界と日本との関わりをシナリオづくりに取り入れることで、ヨーロッパ人の来航についての時代や社会の背景などを考察させる。

(6) 本時の展開

	学習内容	学習活動	学習活動の留意点及び形成的評価のための評価規準	教師の指導・助言活動
導入	・ガレオン船についての発問・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・南蛮屏風を見ながらガレオン船に対する教師の質問について考える。 ・この船はどこから来たか? ・どんな人が乗っているか? ・船体の色は? 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の船ではないことに気付かせる。 ・外国と日本との交流に関心をもたせるきっかけとする。

展 開	<p>インタビュー形式で行う劇化の事前学習 (ワークシートの作成) 各グループに配布するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屏風のコピー 4場面 ・前時のワークシート ・本時のワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシート (付箋に書いた内容) や南蛮屏風を見ながらワークシートの必要事項を考え記入する。 ・登場人物のだれを主人公にするか、相談して決める。登場人物の欄を で囲む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台設定や時代背景、テーマは絵画の中から場面をどこに設定するか、また中心になる事柄は何かをポイントにして考える。また、テーマの中にヨーロッパ人の来航、キリスト教の伝来、新航路の開拓、日本の貿易の発展の内容を必ず一つは取り入れる。 <u>インタビュー項目の中にキリスト教など世界と日本の関わりを示す内容を取り入れているか。</u> (思考・判断) ・登場人物の誰を主人公にするか、舞台設定やテーマを踏まえて考え決定する。 <u>舞台設定やテーマを踏まえて主人公を決定したか。</u> (思考・判断) ・前時に書いた付箋の内容(南蛮屏風を見て気付いたこと、疑問に思ったこと)を参考にインタビュー項目と答えを考え、記入する。 <u>インタビュー項目と答えについて、いつ・どこで・だれが・何の理由で・どうやって・何を行ったかを踏まえて作成したか。</u> (思考・判断) <u>班の中で相談し、協力してワークシートが作成できたか。</u> (関心・意欲・態度) <u>世界と日本の関わりなど南蛮屏風の内容を踏まえて発表できたか。また、分かりやすく表現できたか。</u> (資料活用・表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・南蛮屏風を見ながらワークシートを作成するように強調する。 ・グループの中で、班長などに司会をさせて、話し合いを進めるよう助言する。 ・作業の進まないグループには、「南蛮屏風を見るポイント(参考)」や付箋に書いた事柄に着目して考えるよう助言する。 ・インタビュー項目と答えがわかりやすくなっているか、いつ・どこで・誰が・何の理由で・どうやって・何を行ったのかをポイントにして作成するよう指導する。 (例) 宣教師の場合 Q. <u>あなたは、日本に何をしに来たのか?</u> A. <u>キリスト教を伝えるためにスペインから船で来た。</u> ・インタビュー項目は3つまでと助言する。 ・インタビューに対する答えは、教科書、資料集等を参照するよう助言する。 ・発表者には、語尾をはっきりとさせ、自信をもって答えるよう助言する。 									
	<p>(参考) 南蛮屏風を見るポイント</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>場面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヨーロッパ人の来航 (新航路)</td> <td>南蛮商人 南蛮船</td> </tr> <tr> <td>この頃の世界の様子</td> <td>召使い おりの中のトラ等</td> </tr> <tr> <td>キリスト教の伝来</td> <td>南蛮寺 宣教師 懺悔室</td> </tr> <tr> <td>戦国大名と南蛮貿易</td> <td>武士 日本の商人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	場面	ヨーロッパ人の来航 (新航路)	南蛮商人 南蛮船	この頃の世界の様子	召使い おりの中のトラ等	キリスト教の伝来	南蛮寺 宣教師 懺悔室	戦国大名と南蛮貿易	武士 日本の商人	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの内容の発表 (各班) ・インタビュー項目と答えをグループごとに発表する。 例) A 1班、 B 2班..... 	
項目	場面												
ヨーロッパ人の来航 (新航路)	南蛮商人 南蛮船												
この頃の世界の様子	召使い おりの中のトラ等												
キリスト教の伝来	南蛮寺 宣教師 懺悔室												
戦国大名と南蛮貿易	武士 日本の商人												
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの提出と自己評価用紙の配布 ・自己評価用紙の提出 ・次の授業内容の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループごとにワークシートを提出し、自己評価の用紙に記入する。 ・登場人物のセリフ・シナリオを作成する。 ・小道具等の内容について検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入した内容が「評価規準」に沿っているかを授業後確認する。 									

【資料1：「劇づくりのためのワークシート」生徒作品より】

題名	南蛮屏風について		2年組 班 氏名
舞台設定 時代背景	南蛮寺（戦国時代）		
テーマ （伝えたい こと）	キリスト教の伝来、南蛮貿易		
登場人物	服装・小道具	人物設定	インタビュー項目 インタビューに対する答え
A 戦国大名	刀	南蛮人から鉄砲を買う	なぜ南蛮人から鉄砲を買ったのか 戦で役に立ちそうだから
B 南蛮人の商人	ふくらんだズボン	鉄砲などを売りに来た	何を売っているのか 日本人に鉄砲を売っている
C 宣教師	黒いマント	キリスト教の布教をしにきた	日本へ何をしに来たのか キリスト教を広めるために来た
D 召使い	大きな傘	南蛮人の召使いとして働く	なぜ荷物を運んでいるのか カピタンの召使いだから
E 日本人の商人	まげ	南蛮人から様々な物を買う	何を買っているのか カップを買っている
進行役 インタビュー	マイク	インタビュー	その他に必要な道具、装置など 登場人物を書いた札

【資料2：「シナリオ」生徒作品より】

インタビュー 宣教師	・あなたは、なぜこんなに熱心にキリスト教を布教するのですか。 ・キリスト教の勢いを盛り返すためです。
インタビュー	(荷物を持っている召使いに聞く) ・あなたは、なぜ南蛮人と一緒にいるのですか。
召使いA	・オレ達は口ヨラ様の召使いだ。自分から望んだんだ。
召使いB	・違うよ。無理やりアフリカから連れてこられたんだ。(小さい声)
インタビュー	・荷物には、何が入っているのですか。
召使いA	・地球儀や時計が入っているんだ。
召使いB	・大名に貢ぎ物として渡すんだ。

【資料3：「相互評価カード」生徒作品より】

5班の発表を聞いて - 発表を聞いた感想 -
声が大きくて分かりやすかった。
黒いカーテンを宣教師のマントにしてカッコよかった。
召使いもセリフがあったほうがよかったと思う。

【資料4：「自己評価カード」生徒作品より】

この学習を通して学んだこと・身に付いたこと
コピーを見ただけでいろいろなことがわかって面白かった。
南蛮人たちがわざわざ島国まで来た。
シナリオづくりにあたって工夫したこと・苦労したこと
みんな協力してくれてよかった。
先にインタビューが質問する内容をみんなで決めてからシナリオを書いた。
全体を通しての感想
セリフを間違えたりしてうまくしゃべれなかった。
南蛮人と日本人ではかなり文化が違ったことがわかった。

(7) 授業の考察

絵画資料を活用した課題追究について

本分科会では、研究副主題の「自ら課題を設定し解決する力の育成」を図る工夫として、劇化のシナリオづくりを通して「南蛮屏風」について各自が疑問点（課題）を設定し追究・解決していく学習活動を考えた。絵画資料を活用するために、グループごとに拡大コピー化した「南蛮屏風」を配布し、付箋紙に疑問点を書いて貼ることにより、「南蛮屏風」の中の場面に着目して追究を深める工夫を試みた。また、この単元の学習内容である「ヨーロッパ人の渡来」「キリスト教の伝来」「戦国大名と南蛮貿易」「当時の世界の様子」を読み取るために、「南蛮屏風」の中の「戦国大名」「南蛮人商人」「宣教師」「召使い」「日本人商人」という人物に着目させる工夫を図った。さらに、それぞれの立場や使命を考える中で、「いつ」「何の目的で」「どこから来たのか」といった「5W1H」をもとに課題を設定させることで、多面的・多角的な視点をもってこの時代の様子をとらえることができると考えた。

生徒は、劇化の場面設定・各人物へのインタビュー内容やそれに対する答えを考えるという具体的な活動の中で、各人物の使命やこの場面にいる時代背景等についての考えを深め、「南蛮屏風」に描かれた様子と既習の学習事項をもとに意欲的に課題を追究することができた。完成したワークシートには「(戦国大名の家来への質問) 何しに来たのですか。」「(答え) 戦に勝つために種子島(鉄砲)を買いに来たのです。」「(宣教師への質問) 変わった格好をしています。日本では何をしていますのですか。」「(答え) キリストの教えを伝えるために日本にやってきました。今日は仲間を迎えに来ました。」などが書かれており、予定とした「絵画資料を活用して多面的・多角的な視野を養う」という目標は達成されたと考える。

形成的評価に基づいた指導・助言について

「南蛮屏風」を活用して多面的・多角的な視点でこの時代をとらえ、課題を追究・解決していくことをねらいとするこの授業では、「南蛮屏風」のどこに着目し、テーマを設定させるかがポイントになる。このため、シナリオづくりの活動の中で生徒が押さえるべき事柄や着目すべき場面を明確にし、形成的評価の規準を設定し指導案に取り入れるとともに、これらの規準が達成されない生徒に対する指導・助言もあわせて示す工夫を試みた。そのことで生徒は、グループごとの活動の中で意欲的に取り組み、学習すべき目標を達成すると考えた。

グループごとのシナリオづくりの初期段階は、考えが深まらなかったり、「南蛮屏風」や歴史的事実から離れてシナリオづくりを進めたりするグループもあった。しかし、学習活動の中で教師が評価規準に基づいた形成的評価を行い、助言を与えることによって、生徒が気づき、意欲的な活動が進められる場面が多くみることができた。その結果、各グループとも「南蛮屏風」という絵画資料の中から「ヨーロッパ人の渡来」「キリスト教の伝来」「戦国大名と南蛮貿易」「当時の世界の様子」を読み取り、この時代を多面的・多角的な視点からとらえることができたと考える。

4 歴史的分野の研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本分科会では、生徒自らが課題を発見し追究するために歴史的資料をどう読み取り多面的・多角的に考察するかという点を重視し学習計画や学習内容の工夫を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

絵画資料の見方を学ぶことにより、学習意欲が高まり自ら課題を発見することができた。

様々な資料の読み取りを通して資料の見方・考え方を身に付けその技能を向上させることは、課題を解決する力の育成に欠かせない。ここでは、一次的資料であり、多様な人々のくらしや当時の風俗など歴史的事象が盛り込まれている絵画資料を取り上げた。グループ学習形式で5～6人に4枚の大きなカラーコピーの「南蛮屏風」を用意した結果、よりじっくり考察でき、普段つまづきがちな生徒も学習意欲を高め絵画から課題を発見することができた。

シナリオづくりと劇化学習を通して、多面的・多角的に課題を追究することができた。

課題追究の方法として、シナリオづくりの過程を重視した学習の展開を図った。その際、絵画資料を見るポイントとして、まず、「5W1H」をもとに課題を設定させ、ヨーロッパ人渡来の目的とその背景を多面的にとらえること、戦国の世を背景にした日本人の姿と南蛮文化の影響を多角的にとらえることを教師が意図的に指導、助言した。その結果、グループ内の話し合い活動が活発になり、互いに課題をとぎすまず場面が見られた。さらに、劇化したワークシートの発表を行った結果、すべての生徒に自分の役割が生まれ各自が主体的に課題の解決に取り組む姿が見られた。

ポートフォリオを活用した形成的評価の工夫で資料活用と課題を解決する力を養えた。

今回の研究では、全体を通してポートフォリオを活用した学習を行った。例えば、課題の発見の場面において生徒自身が書き込んだ記録がシナリオづくりに生かされたり、教師が個々の生徒の意見を振り返りをさせることにより課題がさらに厳選されたり、大きな成果があったと考える。また、自己評価と相互評価の中で「絵を見ただけでいろいろ分かり面白かった。」「日本人との文化の違いが分かった。」「またこういう授業がやりたい。」といった意見がみられた。「南蛮屏風」からヨーロッパ人渡来の目的と背景を学びとった生徒が絵画資料への関心を高めた現れであろう。このことから形成的評価を工夫し、教師が資料読み取りのポイントを明確化し指導、助言することは、有効な方法であると考えられる。

(2) 今後の課題

絵画資料を使い多面的・多角的に追究する学習は、他の場面でも十分応用が期待できる。しかし、シナリオづくりと劇化を通して追究する際、劇づくりに集中するあまり、肝心の社会的な視点をもった考察ができないグループが出てくる。この場合、教師が軌道修正する必要性が生じる。今回の場合、インタビューへの指導が劇を成功させるポイントであった。学習のねらいから離れないよう劇づくりを導き有効な学習を行うためには、各資料に応じて登場人物の選定と劇づくりの方法をさらに工夫する必要があると思われる。また、劇化の成功は、繰り返し訓練による効果も大きいと考えられる。限られた時間ではあるが、こうした学習を計画的に取り組むことで定着し、シナリオづくりの技能と課題をさらに深く追究する力が育つと考える。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 勝田印刷株式会社